

TZ 〈ほんの窓〉

第 22 号 (2009.9.1) 一橋大学附属図書館高本善四郎氏助成図書コーナー「本の紹介」班

『蟹工船』の読まれる「いま」

もう『蟹工船』は読みましたか？ 2008 年に新潮文庫版がベストセラーになるなど、2008 年の新語・流行語トップテンにも選ばれました。マンガ版も複数刊行され、映画化、舞台化など、2009 年現在も注目されています。

なぜ「いま」また『蟹工船』が読まれるのでしょうか。

■ 『蟹工船』

小林多喜二が 1929(昭和 4)年、雑誌『戦旗』に発表した小説。極寒の北海で蟹の缶詰を作る「蟹工船」を舞台に、過酷な労働現場、酷使される労働者が描かれています。プロレタリア文学の代表格として、国語の資料集や日本史の教科書にもその名が掲載される、有名な作品です。まずご一読下さい。

『蟹工船；党生活者』 小林多喜二著 — 改版 — 新潮社, 2003. 6 (新潮文庫；こ-2-1) 【9100:2216】

『蟹工船；党生活者』 小林多喜二著 — 角川書店, 2008. 8 (角川文庫；15281) 【9100:2122】

『蟹工船；一九二八・三・一五』 小林多喜二作 — 改版 — 岩波書店, 2003. 6 (岩波文庫；緑(31)-088-1) 【0800:32:B/538】

『戦旗』 — 復刻版 【ZK:182】 * 「蟹工船」は、1929(昭和 4)年 5 月号と 6 月号に掲載されています。

.....
小林多喜二(1903-1933)

秋田県で生まれる。4 歳で小樽へ移転。小樽高等商業学校 (現小樽商科大学) へ進学、北海道拓殖銀行へ就職。当時
非合法だった日本共産党で活動。1933(昭和 8)年 2 月 20 日治安維持法違反で逮捕され、その取調中に死去。享年 29。

* 『蟹工船』をはじめ、小林多喜二の著作は、青空文庫(<http://www.aozora.gr.jp> 携帯電話版もあります)でも無料で
読むことができます。
.....

<<関連図書>>

『小林多喜二と「蟹工船」』 — 河出書房新社, 2008. 9 (KAWADE 道の手帖) 【9100:2143】

『小林多喜二時代への挑戦』 不破哲三著 — 新日本出版社, 2008. 7 【9100:2123】

『小林多喜二全集』 小林多喜二著；全 9 巻 — 新日本文學會, 1948-1949 【PAe:54】

■ プロレタリア文学 [運動]

大正後期から昭和初期にかけて展開された文学運動。労働者の現状を表現して、階級闘争を展開しようとした、社会主義、共産主義運動の一翼を担います。プロレタリアとはドイツ語の Proletarier、生産手段(原料や道具)を持たないため、みずからの労働力を資本家に売って生活する賃金労働者のことです。無産者ともよべれます。以下に導入書や概説書を紹介します。

『プロレタリア文学はものすごい』 荒俣宏著 — 平凡社, 2000. 10 (平凡社新書；057) 【9100:2217】

『プロレタリア文学とその時代』 栗原幸夫著 — 平凡社, 1971 (平凡社選書；6) 【0800:10:6】

『プロレタリア文学論』 小林多喜二、立野信之著 — ゆまに書房, 1991. 11 (新藝術論システム；20) 【7000:316:20】

『日本プロレタリア文学集』 全 41 巻 — 新日本出版社, 1984-1988 【9180:66】

【裏面へ】

■ 『蟹工船』が読まれる「いま」を読む

『蟹工船』ブームは、2008年2月、ある書店員が、「ワーキングプア」と絡めたポップ(ミニ広告)とともに店頭で平積みしたことがきっかけだと言われています。ブームの根底には、長く続く不況感、不安定な雇用など、「現在と将来への経済的不安」があるのではないのでしょうか。

そんな「いま」を読むための資料をご紹介します。

『私たちはいかに「蟹工船」を読んだか：小林多喜二「蟹工船」エッセーコンテスト入賞作品集』— 白樺文学館多喜二ライブラリー, 2008.2【9100:2218】

主に25歳以下を対象にした読書エッセーコンテストの受賞作、17篇を掲載したものです。学生達の読後感にも興味を引かれますが、ネットカフェから寄せられたエッセーが生々しく印象に残ります。

『ワーキングプア：解決への道』NHKスペシャル『ワーキングプア』取材班編— ポプラ社, 2008.7【3610:3013】

NHKが2006年7月から2007年12月にかけて3回に渡って放送した特集番組を、書籍にまとめたものです。この番組をきっかけに、「ワーキングプア」という言葉が広く認知されるようになりました。

『格差と貧困がわかる20講』牧野富夫, 村上英吾編著— 明石書店, 2008.7【3610:3029】

労働、福祉、医療など、比較的広範に取り扱っています。各講参考文献があり、より深い理解に進むための第一歩になる一冊です。

『労働経済白書』【3660:443】『厚生労働白書』【3641:8】『経済財政白書』【3321:334】他行政府刊行白書
(雑誌棟2階白書コーナーに配架)

行政府の現状に対する見解が確認できます。多くの統計資料を引用していることから、さらに詳細な統計情報を探す足がかりとなります。また、毎年同時期に刊行されるため、経年変化を調査することができます。最新平成21年版(9月1日現在未所蔵)は、Web上で閲覧できます。

『労働経済白書』『厚生労働白書』(厚生労働省)：<http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/index.html>

『経済財政白書』(内閣府)：<http://www5.cao.go.jp/keizai3/whitepaper.html>

<<その他の関連図書>> (本館2階の分類【3660】周辺の本棚もご覧下さい)

『現代の貧困：ワーキングプア/ホームレス/生活保護』岩田正美著— 筑摩書房, 2007.5(ちくま新書；659)
【3680:269】

『派遣のリアル：300万人の悲鳴が聞こえる』門倉貴史著— 宝島社, 2007.8(宝島社新書；243)【3660:1027】

『ネットカフェ難民と貧困ニッポン』水島宏明著— 日本テレビ放送網, 2007.12(日テレノンフィクション；001)
【3680:282】

『貧困報道：新自由主義の実像をあばく』メディア総合研究所編— 花伝社, 2008.10(メディア総研ブックレット；NUMBER12)【3680:318】【3680:318A】

『日本の雇用：ほんとうは何が問題なのか』大久保幸夫著— 講談社, 2009.6(講談社現代新書；1997)【3662:249】

『貧困研究』貧困研究会編集— 明石書店, 2008.10—【3680:320】

『ニッケル・アンド・ダイムド：アメリカ下流社会の現実』バーバラ・エーレンライク著；曾田和子訳— 東洋経済新報社, 2006.8【3660:1018】(原著：『Nickel and dimed：on (not) getting by in America』Barbara Ehrenreich— Metropolitan Books, 2001【洋書 3662:267】)

『ワーキング・プア：アメリカの下層社会』デイヴィッド・K.シプラー著；森岡孝二, 川人博, 肥田美佐子訳— 岩波書店, 2007.1【3610:2618】

『ルポ貧困大国アメリカ』堤未果著— 岩波書店, 2008.1(岩波新書；新赤版1112)【0800:33:新赤1112】【0800:33A:新赤1112】

『韓国ワーキングプア88万ウォン世代：絶望の時代に向けた希望の経済学』禹哲熏, 朴権一著；金友子, 金聖一, 朴昌明訳— 明石書店, 2009.2【3670:1358】